

巻頭言

2022年度 一宮研伸大学紀要 第2巻 発刊に当たって

図書館長 安藤詳子

この度、一宮研伸大学紀要第2巻について6件の論文が編集され発刊となりました。専任教員らにより、急性期看護学・療養生活支援看護学の領域における文献レビュー、基礎看護学・老年看護学から教育実践報告、教育方法 e-learning システムの開発、また、本学における地域貢献を目指した学生の活動に関する報告と、充実した貴重な内容となっています。

本学は、2022年度、学部6期生を迎えると同時に、文科省から大学院看護学研究科修士課程設置の認可を得ることができました。2023年度、開設となります。今後、ますます本学における学究的活動の活性化が望まれます。本学の専任教員、助手、学部学生、大学院学生、卒業生、修了生等、投稿することができます。学部における教育実践報告、大学によるオリジナルな取り組みによる活動報告、また、文献研究、面接調査による質的研究、質問紙調査による量的研究、基礎的実験研究など、幅広く論文の掲載が期待されます。

看護学分野においては、日本看護系学会協議会（Japan Association of Nursig Academies: JANA）が、国内の看護系学会を束ね、相互交流と連携をはかり学術的発展をめざしています。そして、看護学研究の成果を社会に還元する学会活動を支援しています。JANAは2001年に発足され、2006年に第20期日本学術会議へ会員1名・連携会員10名を超え、初の看護学研究者として承認されるという成果を上げてきました。2014年に一般社団法人に移行し、2015年には会員数は42学会、2023年現在では49学会となっています。そして、各学会、また、日本看護系大学協議会を通して、私たち看護研究者個々に日本学術会議関連の情報が流入されるようになりました。2022年12月、第42回日本看護科学学会(JANS42)において、日本学術会議健康・生活科学委員会看護分科会が主催し、公開シンポジウム「地元創成看護学の実装-教育・研究・社会貢献の循環-」が開催されています。大きな潮流の動きを捉えつつ、本学の教員・学生ともに、その一翼として、地域への貢献を中心テーマとし、人々の健康と生活の質向上のため研究的課題に取り組んでまいりましょう。

発刊にご協力、ご支援くださいました皆様に感謝申し上げます。

2023年2月末日